

湯けむりピンポン温泉 IN うまじ

特集

5

高知県



コミュニティセンター
馬路温泉 支配人
林 義人

馬路村と馬路温泉

「みんなあ、ごつくんやりゆうかえ!?」馬路村の小学生が元気に登場するCM也大ヒット。人口900人、高知県の山の中から柚子の加工品をどこよりも先に全国へ知らしめ、くねくね道のどん詰まりにある馬路村へわざわざ足を運んでくれるお客様もうなぎ上り。老人クラ

ブや自治会の日帰り旅行先だったコミュニティセンターは、柚子商品のパッケージにイメージを膨らませて全国からやって来始めました。

昭和54年8月に開館したコミュニティセンターうまじ（馬路温泉）は地域住民の福祉と交流の場として営業がはじまりました。開館当初の従業員、「いらっしやいませ」が「今日はどういたぞね（どうしたの）」「ありがとうございまりました」は「気をつけて帰りよ」という調子。サービスというよりは診療所の雰囲気。玄関で診療所調の窓口から覗き込むように受付をしていましたが、流石にフロントの場所も変わりました。そして、平成に入り、柚子商品が全国へと販売され、次第とイメージを膨らませたお客様が馬路村へ来村し始めます。馬路村に来ると、立ち寄り先は必然と馬路温泉になり、食事や入浴、宿泊をされるようになります。その時に、柚子商品のパッケージの可愛らしい子供達、笑顔にこのおんちゃん、おばちゃんの優しい言葉を期待してきたお客様は「???」「???」あれ、あれれ。となります。

湯けむりピンポンINうまじ温泉

配人に抜擢されました。心にあったモヤモヤをこの時ばかりは発散させなければと、アクセル全開です。

その一つが「湯けむりピンポンINうまじ温泉」の開催でした。温泉地と言えば、浴衣姿で卓球というイメージがあります。これを是非馬路温泉でもやりたいと思い、直ぐに始めました。また、馬路村では木の団扇を作っていましたので、これはラケットになると、直感しまし



ピンポン団扇

た。馬路温泉独自のルールを作り、第一回目を開催しました。参加者のユニ

フォームは馬路温泉の浴衣。ダブルスの試合。ブルスの試合。そして、生ビールが給水所に設置され、飲みながら試合を行います。また、試合後には懇親会を開き、交流を深めて貰います。高知県内でも珍しい温泉地でのスポーツの開催に、ピンポンに参加する地元住民との交流という事で、馬路村の一



ピンポン

つこの事業になりました。年に一度の大会は今年の10月で14回目を数え、北は北海道から南は熊本県の方まで参加されています。そしてNHKの全国放送で取り上げられた時には、タンザニアからの参加もありました。13回の間に大きく変更した点は、更にラリーが続くようにネットの高さを2倍にした事です。また時を同じくして、温泉を盛り上げようと、馬路温泉のように、ラケットをご当地の物で卓球をする温泉施設が日本各地で大会を開いていたようです。北海道の真狩村にある真狩温泉はスリッパ、兵庫県のこんだ薬師温泉は風呂桶、山口県湯田温泉はスリッパ、熊本県黒川温泉は入湯手形、長崎県雲仙温泉は鍋蓋、佐賀県嬉野温泉はスリッパなど。その温泉地域がご当地ラケットを持ち寄り、大会が始まりました。一点取るごとにラケットを変えていき

また時を同じくして、温泉を盛り上げようと、馬路温泉のように、ラケットをご当地の物で卓球をする温泉施設が日本各地で大会を開いていたようです。北海道の真狩村にある真狩温泉はスリッパ、兵庫県のこんだ薬師温泉は風呂桶、山口県湯田温泉はスリッパ、熊本県黒川温泉は入湯手形、長崎県雲仙温泉は鍋蓋、佐賀県嬉野温泉はスリッパなど。その温泉地域がご当地ラケットを持ち寄り、大会が始まりました。一点取るごとにラケットを変えていき



ピンポン交流会の様子



ピンポンチラシ

ます。第六回全国大会は今年の7月に北海道真狩温泉で開催されます。湯けむりピンポンをはじめた事によって、全国温泉ランキングの上位に入る有名温泉と肩を並べられる事が何よりも嬉しく思います。20年前には、全国で柚子商品を手に持ったお客様がワクワクしながら馬路温泉に来たのに、がっかりさせたこともありました。少しずつですが、馬路温泉に来てくれたお客様に喜んでもらえるようになりました。

馬路温泉ではピンポンの他にも柚子の村なのにバラ風呂の開催や、駅も無いのに駅弁の販売をしたり、杵からはみ出した事をやりながら馬路温泉のイメージを作ってきました。今では馬路村農協の発行するカレンダーに馬路温泉のイベントが記載されるようになりました。これからは柚子の村なのにこんな温泉なの？をコンセプトに、柚子だけに頼らず、馬路温泉をPRして沢山のお客様に笑顔で帰って貰える温泉を目指したいと思いません。